

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	平成 30年 2月 18日	評価結果市町村受理日	平成30年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成 30年 3月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の方針である「思いやりといたわりの心」を根本に置き、「支え・愛」を運営理念として、ご利用者様に対して職員、ご家族、近隣住民とともに支えあい、愛溢れるケアの提供を行っています。引き続きご利用者様に対しての接遇を重視し、より多くの笑顔を引き出せるような関わりを目指して取り組んでおります。自治会の方々には事あるごとにご協力を頂き、良好な関係を構築できていると自負しております。さらに地域に溶け込むため、催し物を企画する等(今年度は認知症カフェを実施しました。)において、湖北台ケアガーデンワカバが近隣住民にとって気軽に立ち寄れる場所となれるよう、スタッフ一同、日々励んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の支援の基となるケアプランは、ケアマネジャーが居室担当職員と相談し作成している。見直し時は担当者会議を実施しており、利用者によっては医師や訪問看護師も参加するなど、多様な意見を反映させている。ホームは小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、日中は利用者同士が関わりながら過ごしている。花見の時期は隣接する公園にテーブルを置き、手作りの食事を楽しむのが恒例となっており、利用者の楽しみとなっている。地域との関係も大切にしており、自治会の盆踊りや餅つきなどのほか、防災訓練にも参加し、ホームの祭りは、利用者・家族や地域住民など多くの参加者が集う機会となっている。今年度は「認知症カフェ」を新たに開設するなど、地域に根差したホームを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え・愛」をモットーにお客様、職員すべての方々が「笑顔」でいれる環境を築きあげるべく、職員一同「思いやり・労り」を念頭にお客様(ご本人・ご家族、関係者様各位)すべての方々へ誠意を持ってご対応させていただいております。	入職時のオリエンテーションや毎月行われる職員ミーティングなどで理念の確認を行い、共有を図り、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、イベント行事(ホーム主催・自治会主催)等、地域の方々との「接点」を持てるよう、地域交流・地域との繋がりを大切にしております。今年度より、新たな取り組みとして認知症カフェを実施致しました。	自治会に加入し、盆踊りや餅つきなどに利用者とは出かけたり、防災訓練に参加している。ホームの祭りには多くの地域住民が参加している。また、今年度より「認知症カフェ」を開設しており、近隣住民にも来てもらっている。地域との関係は良好であり、ホームの強みとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、市内及び地域の高齢者問題、認知症独居者の対応についてなど、高齢者なんでも相談室様。自治会様及び防犯対策での「こども110番」拠点を行い、PTAの方々とも協力して情報共有させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員様のご意見・ご要望及びご助言を頂戴して、改善出来る事は率先して実行していくよう努めております。特に地域交流については自治会長様と連携を図り、イベント行事への積極的な参加、災害対策での連携などの強化を含めて、地域に根差して安心して利用できるホームにしていけるよう強化しております。	運営推進会議は自治会長や地域住民、地域包括支援センター、行政の担当課、家族などが参加し2か月に1回実施している。利用者の状況やホームの活動などを報告し、意見交換を行っている。	運営推進会議は多彩なメンバーで開催されているが、議題についてはさらに検討するとよいと思われる。また、家族の参加を促す取り組みも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者支援課・高齢者なんでも相談室(地域包括)・介護相談員様等にご指導頂き、管理者だけでなく現場職員全体でも連携を図り、情報共有させて頂きたいと思っております。	行政の担当課や地域包括支援センターとは運営推進会議で意見交換をしている。さらに、地域包括支援センターとは地域の事業者交流会や困難事例などで連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関施錠はしておりません。夜間帯はセキュリティの観点から施錠しております。身体拘束に関しては行動を制限してしまう行為であることを現場ケアを通じて職員に理解を促すとともにスタッフミーティングなどでも周知を促しております。	身体拘束廃止などの勉強会をホーム内で行い、禁止行為を確認している。玄関は施錠せず、安全のためセンサー等を使用する場合は家族の了解を得ている。言葉遣いにも注意をうながし、利用者を尊重したケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、入浴介助時に身体の外傷確認や心身状態の観察を強化して個々の状況把握に努めています。スタッフミーティングなどでも虐待防止への理解を深められるよう話題にするように努めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度等現行は利用している対象者はいませんが、小規模多機能のほうで対象者がいらつしゃるため、高齢者なんでも相談室の職員様を通じて学習させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様と契約書・重要事項説明書を読み合わせた上で、再度詳細説明してご了解をいただいております。不安や疑問点等についてもその都度ご説明させていただきご理解をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアカンファレンスなどでご家族様のご意見・ご要望を頂戴して、そのご意見やご要望などスタッフミーティング等で職員全体で共有して出来る限り実行できるよう努めております。	利用者の意向は普通の会話の中から把握に努めている。家族の要望や意見などは来訪したときに聞いており、管理者やケアマネジャーが対応している。現在、家族には主治医を交えて話をする機会を設け、医療面で相談に乗ってもらっている。家族の思いも聞くことができるなど、よい取り組みと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを月1回実施しております。そこで意見・提案など出し合い職員で話し合い議論しております。事業所内で決定できない案件に関しては本社管理職会議にて稟議をかけて検討させていただいております。	毎日の朝礼や月1回のスタッフミーティングなどで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の希望休などではできる限りシフトに反映させている。職場の雰囲気もよく、何でも話し合える環境となっていると思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全員がオールマイティに柔軟に業務が行えるようにしている。尚、小規模多機能サービスと兼務になっている職員が殆どなので各自広い分野で活躍できる環境でもあります。尚、職員個々の力量・要望も考慮して配置しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や考え方を把握出来るよう管理者のみならず常勤職員が悩みなどの相談且つ、助言によりスキルアップしやすいようにしている。スタッフには使命感を養ってもらえるよう居室担当制(個々のお客様担当)にして仕事のモチベーションアップにもなるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内事業所分科会に参加したり、交流会に参加する事で、他事業所との情報交換等させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の事前面談において、ご本人様のご要望を確認し、かつスタッフからも色々な提案をすることで安心を得てもらうような働きかけをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の状況も踏まえ、それと同時にご家族様との状況及び提案もさせていただき、必要なサービスを提供するよう努めております。安心して多種多様な相談もしていただける関係構築の実現を目指し且つ、密に連絡のやり取りを行い、迅速に対応するよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメント時にご本人様とご家族様の意向を把握して、意向を出来る限り尊重していきけるよう計画作成者、常勤スタッフを中心に職員全体で話し合い、その時に必要なサービスを検討して提案させていただき実行しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・洗濯・掃除の準備や後片付けなどを一緒に行い、生活協同者であるのだと思っただけのよう職員全体で日々努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームのイベント行事のみならず定期通院等でも事前にお知らせしてご本人様との関わりを増やしてもらい、面会しやすいような環境作りに努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の知人が面会に来られた際、ホーム内で気軽にお話しが出来るよう、雰囲気づくりに努めております。また、ドライブにて馴染みの場所を通る等しています。	知人が訪ねて来たり、親戚の美容院に出かける利用者もいる。また、家族とお墓参りや外食に行ったり、正月には自宅で過ごすなど、ホームは本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は1Fフロアにて小規模多機能サービス利用者様も含めて一緒に過ごしていただいております。朝・夕の食事は必ずご入居者様同士で召し上がっていただきます。その際、性格や相性を把握して座席などを考慮し楽しんで過ごしていただけるよう心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後についても、ご家族様に不定期ではあるが煩わしくない程度にお電話をさせていただき相談事もしくは、支援が必要でないかを確認するよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を出来る限り尊重させていただいております。ホームでも対応しきれない事態が発生した場合には、ご家族様のサポートをお願いしながら出来る限りご本人様の気持ちを最大限尊重出来るように努めております。	契約前に自宅を訪問して、本人や家族の希望や意向を把握している。入居後も日頃の生活の中から本人の思いの把握に努め、利用者本位に生活できるよう努めている。また、家族からも来所時や電話で意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時により多くの情報を収集できるように努めております。また、ご家族様にもサービス提供時に疑問点等発生した場合には、その都度確認するようしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「気付き」を大切にして記録に残し、一人一人の様子や変化を把握出来るよう日々観察していくようしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー⇄居室担当者が月1回各々モニタリングを実施して、その各々のモニタリングシートをもとにケアカンファレンスを行い、ケアプラン進捗及び見直しを検討していくようしております。また、訪問診療の際に主治医にアドバイスを頂くようしております。その検討内容に準じてサーにス提供をしていくよう努めております。	毎月のモニタリングを居室担当職員が行っている。そのモニタリングを参考に、半年に1回アセスメントを実施し、介護計画の見直しをしている。担当者会議には家族や医師、看護師、訪問マッサージなど利用者に関係している人が参加しており、連携を図りながら本人の状態に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(カードックス記録票)には日々の様子や変化を記録に残しております。特記事項などは「GH連絡ノート」に記録して情報共有を徹底しております。これらを活用して介護計画に反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のみならず、ご家族様も含めてのニーズの変化に対応するべく、「出来る事」「出来ない事」をより明確に職員全体が認識して、誠意を持ってお客様に対応させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催のイベント行事(盆踊り大会、防災訓練、餅つき大会等)に参加させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に関わる重要な情報を把握出来るよう、主治医・管理者・ケアマネジャー・ご家族様及び場合によりご本人様も含めてカンファレンスを開催して「顔のみえる関係の構築」を主旨に場を設けてご家族様が安心感を持っていただけるように努めております。	かかりつけ医は本人や家族の希望で決めており、ホームの協力医療機関や在宅時の主治医の往診を受けている。専門外来は家族が同行している。また、協力医が、家族の相談にのる時間を設けており、安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来所した際、ご入居者様状態の健康状態を説明していただいております。また、場合により、電話連絡にて相談及び指示・指導等仰いで対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカー様と情報交換を行い、ご家族様の要望・意向等を反映して対応しております。入院先にも面会して可能な限り看護師、リハビリ担当の方等に状況を聞いて情報収集しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び主治医とのカンファレンスにて意向を確認しております。その意向を出来る限り尊重して終末期を迎えられるよう主治医やご家族を含めたチームとして連携し意思統一を図り対応していくよう努めております。	「看取りに関する指針」「重度化した場合における指針」を用いて、契約時にホームとしてどこまでできるかを説明し本人・家族の同意を得ている。重度化した場合は主治医や家族と相談し、今後の対応を決めているが、できる限り意思を尊重したいと考えており、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者のちょっとした変化にも気付くことができるような観察力を日頃から意識しております。実際の急変時や事故発生時には、マニュアルを作成し職員がいつでも見れるよう準備してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練等を実施して緊急時に対応出来るよう努めております。今後、水害や土砂災害においても研修会等への参加にて研鑽を深めていきます。	年2回火災を想定した避難訓練を実施している。利用者の全員避難や通報訓練、消火期の使い方などを行い、食員は必ず1回は参加するようにしている。備蓄は水や食料品を5日分準備している。自然災害対応訓練については今後取り組む予定である。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや表情については常に注意を払うよう意識して対応しております。声のトーン・思いやりのある穏やかな言葉かけなどに気を配り、不快感を感じさせないようにしております。プライバシーに関しては、個人情報保護法に基づき対応していくよう努めております。	言葉使いや声のトーン、大きさに配慮し、利用者一人ひとり合わせて対応している。また、難聴やコミュニケーションが難しい利用者には筆談などを取り入れ、不快感や疎外感を感じさせないように配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様⇄職員とで、どんな事でも話しが出来る関係づくりを大切にして、思いや希望をきちんとお聴きするよう努めております。お聴きした話しを参考にして、より良い援助が継続できるようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の「出来ること」を居室担当者を中心に職員職員全体で抽出していき、個々の役割として行っていただくようにしております。その役割を中心にして毎日の余暇時間をどう過ごしたいかを確認しながら皆様の要望を反映して過ごし方を決定していくよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに合わせて一緒にコーディネートさせていただいております。ヘアカットに関してもご本人の意向に合わせて訪問理美容もしくは、ご家族様がカットして下さったりして要望を尊重しております。お化粧教室等の開催も検討しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々人の嗜好品の把握に努めています。準備や後片付けに関しては、安全に配慮しながら一緒に行ってもらっています。スタッフが同じ物を一緒に食べながら、雰囲気づくりに励んでおります。	職員による手作りの食事を提供している。昼食は併設の小規模多機能サービス利用者と一緒に食事しており、和やかな雰囲気である。食事形態は利用者に合わせており、ペースト食の利用者には献立を説明して提供していた。また、小グループでの外食や出前をとるなど、食事を楽しめるような支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度チェックしております。1日のトータルを集計して「多い・少ない」を判断して申し送り等で情報共有を図り注意を払っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には必ず口腔体操を実施して、食後は口腔ケアしております。義歯の方・介助が必要な方々には職員が対応しております。必要に応じて訪問歯科診療を受けられる体制を整え、口腔内の保清に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレで排泄出来るように努めております。	利用者の排泄パターンをバイタルチェック表から把握し、トイレ誘導を行い自立に向けた支援に努めている。状況に応じて、夜間はポータブルトイレを居室に置くなど、一人ひとりに合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事においては、食物繊維の多く含まれた食品及び乳製品等取り入れるようにして工夫するとともに、適度な水分摂取を促しています。また、体操等による運動を頻繁に取り入れ、便秘予防を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は計画していますが、体調不良や、外出等の際には、出来る限り柔軟に対応し入浴の機会の確保に努めています。また、実際に拒否的な方もおりますので、声掛けの仕方や雰囲気工夫する等しています。	浴槽は一般浴槽とチェアーインバスの2種類あり、利用者に合わせて使用している。状態によりシャワー浴の場合もあるが、浴槽に入りたいとの希望があれば、二人介助で対応するなど、入浴を楽しんでもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠が生じた場合には、ココアなど温かい飲み物を提供し、お話を聴くなどして安心してベッドに横になって頂くようにしております。また、介護ロボットを導入し、睡眠パターンの把握に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セット担当・服薬介助者でのWチェックを徹底しております。服薬介助者は、落薬・誤薬のないよう注意を払っております。尚、症状の変化に対応するべく、必ず記録に残して変化が生じている場合には主治医に報告をして指示を仰ぐよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々に合わせたイベント行事や催しを計画し、出来る限り外出の機会を増やして気分転換していただくようにしております。ご入居者様の要望に添ったイベント行事や催しを計画立案して実行しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご希望に出来る限り合わせて、散歩・買物・通院などに出掛けております。自治会様主催のイベント行事(盆踊り・防災訓練・餅つき大会)などにも積極的に参加しております。	ウッドデッキでの外気浴や隣接の公園に花見に出かけている。また、自治会の夏祭りや餅つき大会に参加したり、家族と外食する利用者もいる。	外出の支援は課題としており、引き続き工夫を行い、外出の機会を増やすことを期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの金庫にて「お小遣い金」としてご家族様からお預かりしたお金を管理しております。また、外出時には、職員管理のもと、ご本人様にお渡しして対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じてお電話や手紙のやり取りが出来るように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション時に制作した作品を展示しております。暖かい色合いの照明を選んで穏やかな雰囲気づくりを演出しております。季節の花を飾る等して四季を感じてもらおうような働きかけをしています。また、「香り・臭い」を意識してホーム内での不快感を感じさせないよう心掛けております。	日当たりが良く、とても明るい共用空間は広さも十分である。利用者手作りの季節のカレンダーや生花が飾られ、家族の協力で庭には季節の花が植えられている。また、ウッドデッキを活用し日光浴やお茶を楽しむなど、居心地よさそうな共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F・2Fフロア・食堂・和室など自由に利用出来るよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物の持ち込みを呼びかけ、自宅と同じような感覚で過ごしていただけるよう、居室担当者を中心に工夫しております。	ホームで用意しているベッドとカーテン以外は使い慣れたものを持ってきてもらい、利用者が落ち着いて暮らせるような居室になるようにしている。清掃は職員が行い、気持ちよく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり畳んだりする事が安全に出来る環境にしております。また、残存機能を生かし入浴など出来るよう浴室も整備しております。		